

# 令和4年度病虫害発生予察情報 予報第10号（10月）

令和4年10月13日  
発表：福島県病虫害防除所

## 1 野菜・花き

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は平年より低かった（－）。	多発すると防除が困難になるので、発生初期から薬剤防除を徹底する。
	土壌病害 （萎黄病、炭疽病）	全域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並だった（±）。	発病株及び発病が疑われる株は、見つけしだい抜き取り、ほ場外に持ち出すなど適切に処分する。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は平年より低かった（－）が、発生程度の高いほ場割合が多かった（＋）。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	<b>ハダニ類</b>	<b>全域</b>	<b>—</b>	<b>やや多い</b>	<b>発生ほ場割合は、平年より高かった（＋）。</b>	<b>低密度時から薬剤防除を実施する。</b> <b>抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する。</b> <b>カブリダニ等天敵資材を放飼している場合は、天敵に影響の小さい薬剤を選択する。</b>
野菜・花き共通	コナジラミ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並だった（±）。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	ハスモンヨトウ	全域	—	平年並	フェロモントラップの誘殺数はやや多かった（＋）。 イチゴの巡回調査では、寄生は確認されなかった（－）。	成虫の飛来、産卵は11月上旬頃まで続くので、発生状況をよく観察する。 防除が遅れると被害が大きくなるので発生初期に薬剤防除を徹底する。

注）予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。